

一年を美しい旋律でスタート!

埼玉会館 ニューイヤー・コンサート

実力と人気を兼ね備えたソリストを迎えてお届けする埼玉会館だけの新春祝賀コンサートは、新年を飾るのにふさわしい、華麗な旋律とハーモニーが楽しめる。指揮者とソリストからのメッセージに、早くも期待が高まる。

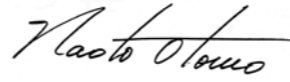


大友 直人 [指揮] Naoto Otomo, Conductor

MESSAGE

新年のお祝いコンサートといえば「ワルツ」「ポルカ」「オペレッタ」。それら全てを1日で楽しめるのが「埼玉会館ニューイヤー・コンサート」です。曲目は〈ワルツ王〉と称えられているJ. シュトラウスⅡの曲目を中心に、舞踏会でもおもしろいような華やかな曲ばかりでございます。ソプラノに鈴木慶江さん、テノールに中鉢聡さんをお迎えして、この埼玉会館を「新年の祝賀」気分を満たせる事が出来れば幸いです。埼玉会館には是非足をお運び頂き、「優雅な気分」でお楽しみください。

●PROFILE 1958年東京生まれ。桐朋学園大学卒業。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘の各氏に師事。22歳でNHK交響楽団を指揮してデビュー。以来、日本の主要オーケストラの定期演奏会・特別演奏会を指揮。86～88年日本フィル正指揮者、86～89年大阪フィル指揮者を経て、91年東京交響楽団正指揮者、2004年同団常任指揮者に就任。また、京都市交響楽団常任指揮者兼アーティストック・アドバイザー、東京文化会館音楽監督を歴任。



鈴木 慶江 [ソプラノ] Norie Suzuki, Soprano

MESSAGE

新しい年の幕開けを、皆さまと一緒に迎えることができますことをとても楽しみにしております。埼玉は高校時代に声楽の道を志した時に初めてのレッスンに通った場所であり、また教鞭をとっている東邦音楽大学があったりと私にとって何かと馴染み深い地域です。その埼玉で今年最初のアリアを中鉢聡さんと東京交響楽団と共に響き歌える事はとても光栄です。皆さまにお会いできる日を楽しみに……。

●PROFILE 神奈川県横須賀市出身。東京芸術大学卒業及び、同大学院修了。1999年G. ニコリーニ国立音楽院(イタリア)に留学。第31回V. ベッリーニ国際声楽コンクール最高位受賞を始め数多くのコンクールで受賞。2002年大晦日にはNHK「紅白歌合戦」および、翌年のNHK「ニューイヤー・オペラコンサート」に初出演を果たし、注目を集めた。現在はイタリアを中心に活動し、その活躍は同地の新聞にも取り上げられている。東邦音楽大学特任講師。ミラノ在住。http://www.toshiba-emi.co.jp/classic/norie/



中鉢 聡 [テノール] Satoshi Chubachi, Tenor



MESSAGE

年明けに相応しい華やかなコンサートです! 美しいメロディーや楽しい曲ばかりですから、普段クラシックはあまり…というお客様にも是非お勧めです! 年の始めを皆さんがハッピーに迎えていただけるように、ハイテンションで頑張ります!

●PROFILE 秋田県湯沢市出身。東京芸術大学卒業。ロシアニ国際オペラコンクール入選。1995年藤原歌劇団公演《椿姫》でデビューし、96-97年渡伊。帰国後、新国立劇場開場記念公演《建・TAKERU》や《こうもり》等のオペラに出演。藤原歌劇団公演では《椿姫》《ロメオとジュリエット》等に主演し好評を博す。またオーケストラとの共演や、国際サッカー試合での国歌独唱、TV・ラジオなどに出演し好評を博している。藤原歌劇団団員。



東京交響楽団

[管弦楽]

Tokyo Symphony Orchestra

1946年創立。51年東京交響楽団と改称して今日に至る。秋山和慶が桂冠指揮者を務め、音楽監督にユベール・スダーン、常任指揮者に大友直人、正指揮者に飯森範親を擁する。49年第1回毎日音楽賞、98年サントリー音楽賞等、数々の賞を受賞。2002年川崎市とフランチャイズ契約を結び、04年に開館したミュゼザ川崎シンフォニーホールを拠点に活動の場を拡げている。http://www.tokyosymphony.com

[曲目]
J. シュトラウスⅡ: 喜歌劇《こうもり》序曲
レハール: 喜歌劇《メリー・ウィドウ》より ヴィリアの歌「音ヴィリアがいた…」(S)
J. シュトラウスⅡ: 喜歌劇《ジプシー男爵》より バリンカイの歌「見捨てられたが陽気に世界をさまよった」(T)
レハール: 喜歌劇《メリー・ウィドウ》より「唇は語らずとも」(S&T)
J. シュトラウスⅡ: ワルツ《美しく青きドナウ》、トリッチ・トラッチ・ポルカ、アンネン・ポルカ、ポルカ《狩》
ビチャート・ポルカ(ヨーゼフとの共作)、ポルカ《雷鳴と稲妻》
レハール: 喜歌劇《ジュディッタ》より「私の唇に」(S)、喜歌劇《微笑みの国》より「君はわが心のすべて」(T)
J. シュトラウスⅡ: 喜歌劇《こうもり》より チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」(S)
ジーツィンスキー: ウィーンわが夢の街 (T)

埼玉会館 ニューイヤー・コンサート

[日時] 2007年1月13日(土) 開演 15:00

[会場] 埼玉会館 大ホール

[出演] 大友直人(指揮)/鈴木慶江(ソプラノ)/中鉢聡(テノール)/東京交響楽団(管弦楽)

[チケット(税込)] 好評発売中

一般 S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円 学生 B席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円 B席 2,700円



ピアニスト100

音楽監督: 中村紘子
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

100人を聴く10年、フィナーレに向けていよいよカウントダウン!

1997年からの10年で100人のピアニストを聴くという壮大な名物企画、「ピアニスト100」シリーズ。後半の第51回(2002年4月)からは日本が誇る世界的ピアニスト中村紘子さんを音楽監督に迎えて、バラエティに富んだ人選でご紹介してきたが、最終年の今年、折り返し点を過ぎ、フィナーレに向けていよいよカウントダウンに入った。

98人目は、いよいよスター・ピアニスト、アルカディ・ヴォロドスが登場。その聴き所を、音楽評論家の諫山隆美氏が案内する。

Arcadi Volodos



98/100 アルカディ・ヴォロドス(ロシア)

驚異的・超人的なピアニズム 世界を席巻するヴィルトゥオーゾ

[日時] 12月9日(土) 開演 16:00

[曲目]
シューベルト:《楽興の時》Op.94 D.780より 第1曲・第2曲・第5曲、ピアノ・ソナタ第11番 へ短調 D.625
リスト:《巡礼の年第1年 スイス》より《オーベルマンの谷》、《巡礼の年第2年 イタリア》より《婚礼》
《伝説》より《小島に説教するアッジジの聖フランチェスコ》、《詩的で宗教的な調べ》より《葬送》

★中村紘子音楽監督によるトーク付き

[チケット(税込)] 好評発売中

一般 S席 5,000円 A席 4,000円 学生 S席 3,000円 A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円

●PROFILE 1972年サント・ペテルブルク生まれ。サント・ペテルブルク音楽院で声楽と指揮法を学んだ後、87年ようやく本格的なピアノの専門教育を受け始めた。ガリーナ・エギアザロフ、ジャック・ルヴィエ、デミトリ・バシキエーロフの各氏に師事。96年ニューヨーク・デビューを皮切りに世界的な活動をスタート。世界の主要なオーケストラ、著名な指揮者との共演、リサイタルなどで絶賛された。2002年のザルツブルク音楽祭デビューは鮮烈で、以後毎夏のザルツブルクに欠かせない存在となった。CDもいずれも評価が高く、天才の呼び声をほいままに活躍を続けている。

2006年最後の「ピアニスト100」シリーズは第98回を数え、あのアルカディ・ヴォロドスが登場する。今や世界の重要なコンサートで客席を埋め尽くす数少ないピアニストとして、世界中の注目を浴びるビッグ・アーティスト。2004年の日本デビューではベートーヴェンのソナタを本格的に聴かせる一方で、自編曲として名高いモーツァルトのトルコ・マーチを凄まじいテクニックで圧倒し、その強烈なインパクトは期待を大きく上回るものであった。

さて今回のプログラムは、前回のテクニックの印象とは大きく異なり、奏するよりも歌うことに主眼を置いた作品で統一されている。今回の公演は開催が告げられてしばらくプログラムが発表されていなかったため、ヴォロドス自身、慎重に検討しての決定なのだろう。恐らく大枠が決定した後も、1曲1曲吟味しながら選曲されたと思われる。前半のプログラムにはシューベルトの小品とソナタ、しかも《楽興の時》には有名な第3番を含まず、ソナタは演奏される機会の少ないへ短調の曲と、ある意味大胆な選曲である。有名だから聴いて楽しいという一般的な聴衆の反応に依存するよりも、演奏そのもので勝負したいという気迫が感じられる。後半のリストは技巧より、じっくり歌い語るタイプの曲の範囲内でバラエティを考慮したのであろう。《小島に…》のトレモロ、《葬送》後半のオクターヴ以外は、ゆったりとしたメロディが主体となるシューベルト風のピアノ曲で、表情と表現力が大いに要求されるものばかり。ヴォロドスの自信に満ち溢れた選曲と言えるだろう。大いに楽しみである。文・諫山隆美(音楽評論家)

NEXT 次回公演のご案内

99/100 **レイフ・オヴェ・アンズネス**
Leif Ove Andsnes(ノルウェー)



●PROFILE 1970年ノルウェーのカルメイ生まれ。ベルゲン音楽院でチェコ出身のイルジー・フリンカ氏に師事。90年代初めに世界の楽壇にデビューして以降、一流オーケストラ・指揮者との共演、リサイタル、室内楽にも取り組み、揺るぎない演奏活動を通じて聴衆の共感と興奮を呼び起こしている。リゾール音楽祭の共同芸術監督として世界的なアーティストをノルウェーに招く一方、自身もヨーロッパ各地の音楽祭の常連である。レコーディングも数多く、3度のグラモフォン・アワード受賞歴を持つ。2002年ノルウェーで最高の栄誉とされる聖オラフ・ロイヤル・ノルウェー上級勲章を受ける。

[日時] 2007年2月10日(土) 開演 16:00

[曲目]
シベリウス: キュリッキ ー 3つの抒情的小品 Op.41
グリーグ: ノルウェー民謡による変奏曲形式のバラード ト短調 Op.24
シェーンベルク: 6つの小さなピアノ曲 Op.19
ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第32番 へ短調 Op.111

★中村紘子音楽監督によるトーク付き

[チケット(税込)] 好評発売中

一般 S席 4,000円 A席 3,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円